された昆虫から筆者が発見した本菌標本にもとづき東アジア産ラブールベニア菌の記載を行いたい。本論文はその第1部として，ラブールベニア属の2新種 *Laboulbenia formosana*, *L. striata* と，リッキア属の1新種 *Rickia nigella* の記載を行った。

(1) *Laboulbenia formosana* は *Lesticus chalcothorax* Chaudoir (ゴミムシ科)の寄生菌で，台湾のみから知られている。外形は *L. flagellata* Peyr. に似るが，托の内外枝ともに第2基部細胞の上で通常3本以上の小枝に分れることで区別できる。

(2) *Laboulbenia striata* は托および被子器基部の表面に微小突起の集合からなる多くの横縞があることで特徴づけられる。台湾産の *Agonum* sp. (ゴミムシ科) から採集された。

(3) *Rickia nigella* はうちわ形をした小型の菌で，托の中央の黒色不透明な部分とその両側の透明な部分とが鮮かな対照をなしている。托の両側面にほとんどすき間もなく附属体が並んでいること，造精器がふつうたゞ1個しかないことなどが主な特徴である。奄美大島採集の *Salganea* sp. (オオゴキブリ科) に寄生する中気門類のダニから発見された。

□広瀬弘幸・山岸高旺 (編) **日本淡水藻図鑑** Hirose, H. & T. Yamagishi (ed.) Illustrations of the Japanese Freshwater Algae pls. 8 pp. 25+933, 内田老鶴圃新社, ¥ 36,000 (1977, X)。1964年に意図してから11人の著者が協力して作り上げたもので，日本としてはもちろんはじめてである。1975年終りまでに日本各地に自生すると報告された種はもちろん，それまでに報告されていなかったものでも，各著者の手元で確認されていたものも含めてであるから，目として38，種として2308 (但し珪藻類はとくに種が多いので別冊として出版される)，変種や品種をも加えてあるから邦産を網羅したものということができる。

それを原則として各図版を左ページに，それに対する学名，記載，産地，分布，検索表等を右ページに列挙して，対面でわかり易くすることに骨を折っている。図はあるがその対面に説明のないものは，わざわざそのページを明記して見易くしてあるなど，大変な操作であったと思う。しかも，ページの一部に空白ができたところには，ノートとして各属種に附随する問題や研究者の紹介などをかかげてあるなど苦心もしてあるし，巻末には淡水藻の採集と研究法，日本淡水藻の分類学的研究略史，文献，学名索引，和名索引を添えてある。何といっても今日の日本における淡水藻類を集大成した功績は大きい。感謝にたえないところであると共にひろく一般にすすめたい。

(前川文夫)